

令和3年度 せつこっこクラブ 5月  
「尾州の布でこいのぼりを作ろう」  
開催結果報告

日 時：令和3年5月5日(水祝) 午後2時～3時30分

参加人数：年少～小学6年生 13名

参加費：500円(材料費)

職員：大村、長岡、丹野、名和

「せつこっこクラブ」は子どもたちに三岸節子作品や芸術に親しんでもらうため、毎月1回を目安に開催しているワークショップです。

今回は5月5日の「こどもの日」にちなんで、一宮市が産地を誇る「尾州の布」を使ってこいのぼりを作るワークショップを開催しました。実は、一宮市出身の洋画家・三岸節子の生家は、大正時代から毛織物工場を運営していた家でした。当時、この周辺にはのこぎり屋根をもつ工場がたくさん立ち並んでおり、美術館もこの工場の形を模しています。今回のワークショップでは、尾州の布でこいのぼりをつくったあと、美術館のギザギザとしたのこぎり屋根の下でオリジナルのこいのぼりを泳がすことに挑戦しました。



まず、こいのぼりのからだ用の布を選びます。一宮地場産業ファッションデザインセンターの協力を得て、カラフルでたくさんの種類の尾州の布を美術館に用意しました。シンプルに一色の布から、きらきら光る糸が使われているもの、複雑な模様には織り込まれたものもあります。その中から、自分の好きな布を1枚選び、こいのぼりの大きさ(全長70cm!)に切り出していきます。



からだ部分の布が選べたら、次は目やうろこ、ひれ、しっぽ…といったパーツを好きな形に切って、思い思いに貼っていきます。使うのは布用のはさみと両面テープ。布を切るのは初めて！両面テープも初めて！という子どもたちもいて、保護者の方と協力して作っていました。

中には、布をたたんで貼ったりぼんを作ったり、うろこの形をハート形にした子どもたちも。徐々に個性あふれるこいのぼりの姿ができあがっていきます。



こいのぼりの口部分に輪っかを入れて立体的に仕上げたら完成です。できた子から用意していたロープにくくりつけ、最後にみんなのこいのぼりを美術館の屋根の下で泳がせました。材料に使用した尾州の布のカラフルさ、ユニークな模様も相まって、美術館のロビーがとても華やかな空間となりました。自分がつくったこいのぼりがひれやうろこをゆらゆらと動かしながら泳ぐ姿に、子どもたちも保護者の方々も大興奮。来館者のみなさんも天井を見上げて楽しんでくれていました。



今回は定員をしばっての小規模な開催となりましたが、申込はたくさんの方からいただいていたので、多くの方々に参加してもらえよう、このこいのぼり作りは来年度も開催したいと考えています。

(学芸員 大村菜生)